

(1,500円)

実用新案登録願 願書 3 号

昭和 49 年 2 月 7 日

特許庁長官殿

1. 考案の名称

包装用容器

2. 考案者

住所 大阪府豊中市服部寿町1の4の13

氏名 湯川 康夫

3. 実用新案登録出願人

住所 大阪府門真市大字三ツ島10番地

名称 千代田紙工業株式会社

代表者 川口 善一

4. 代理人

住所 〒530 大阪府大阪市西区阿波座南通1丁目71番地

アマノビル 電話大阪06(532)4025(代)

氏名 (6808) 代理人 森本 義弘

5. 添付書類の目録

(1) 明細書 1通 (4) 願書副本 1通
(2) 図面 1通
(3) 委任状 1通

方式
審査

49 016097

明 細 書

1. 考案の名称

包装用容器

2. 実用新案登録請求の範囲

膨出部を有する樹脂フィルム(2)の端部を方形台紙(1)の一側面に貼着して該膨出部内に被包装物(3)を収納固定し、該台紙(1)を前記側面が内側になるようにかつ台紙(1)両側端の折込みフラップ(4)が上辺中央の下面で接当重合するように角筒状に折曲し、この角筒状台紙(1)の上面に、相対向する両側縁に把手(5)を連設した厚紙(6)を重ねし、該厚紙(6)の他の両側縁に導板され中央に前記台紙(1)の重合フラップ(4)の端部を嵌合せしめる切込み(6)を設けた古片(7)を、台紙(1)開口の上面両側に折曲重合して固定するようにしたことを特徴とする包装用容器。

3. 考案の詳細を説明

本考案は包装用容器に関するものであつて、店頭でそのまゝディスプレイできるように被包装物を台紙上に被覆固定すると共にこの台紙を角筒状

に折曲して把手を装着しそのまま簡易に搬行できるようにした包装用容器を提案しようとするものである。

以下に本提案に係る包装用容器を実施の例示図に基いて説明する。第1図において、(1)は方形の台紙であつて、その表面に彫出部を有する透明の樹脂フィルム(2)の樹脂を貼着し、該彫出部内に被包装物(3)を収納固定して、そのまま店頭にディスプレイできるようにしてある。(4)は台紙(1)の両側縁に形成した折込みフラップである。この台紙(1)を第2図に示すように被包装物(3)が内側になるようにかつ前記フラップが上側中央の下面で接当重合するように角筒状に折曲し、第3図に示すような相対向する両側縁に把手(5)を挿設し、他の両側縁に中央の切込み(6)を有する古片(7)を設けた厚紙(8)を前記角筒状の台紙(1)の上面に重ね、第4図に示すように前記古片(7)を、夫々中央の切込み(6)で台紙(1)の前記フラップ(4)の端部に係合するようにして筒口部上面の裏側に折曲重合して固定するようにしたものである。第4図中(9)は前記古片(7)を角

筒状台紙(1)の筒口上面の裏側に固定するための止め具である。

本考案に係る包装用容器は以上のように実施し得るものであつて、膨出部を有する樹脂フィルムを表面に貼着しその膨出部内に被包装物を収納固定して店頭でディスプレイできるようにした台紙を、そのまま角筒状に折曲し、把手を有する厚紙を取付けるようにしたので、改めて包装する必要もなく、携行中に組立てることができる。而もこの角筒状の台紙は両側端のフラップを上側中央の下面で接当重台せしめ、前記把手を有する厚紙を該上面に重畳し、厚紙両側縁に設けられ中央に前記フラップ端部を嵌入せしめる切込みを有する古片を台紙筒口の上側裏側に折曲重台固定するようにしたので、この角筒状台紙の筒口上面は強化され被包装物の荷重によつて角筒が容易にひしやげるようなことがなく、また組立て作業も全つて簡単である。

なお、請求の範囲の欄に図面において使用した符号を用いたのはその請求の範囲に記載した内容

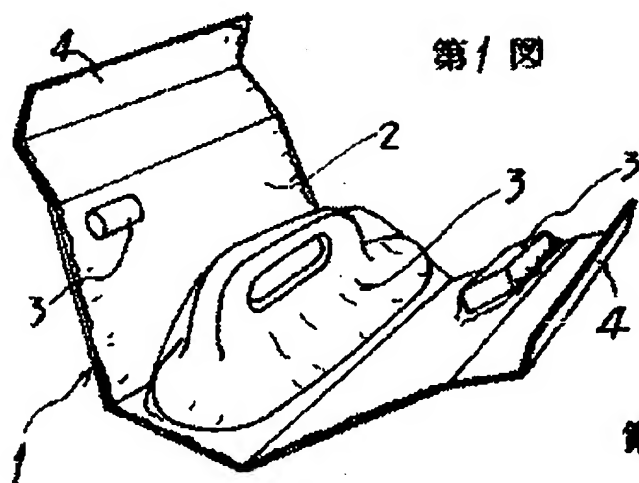
の理解を容易ならしめるためであつて、図面に示された具体構成に限定する意図ではない。

4. 図面の簡単な説明

図面は本考案の実施例を示す斜視図であつて第1図は台紙を展開した状態、第2図は第1図の台紙を角筒状にした状態、第3図は把手を有する厚紙の展開状態、第4図は組立てを完了した状態を示す。

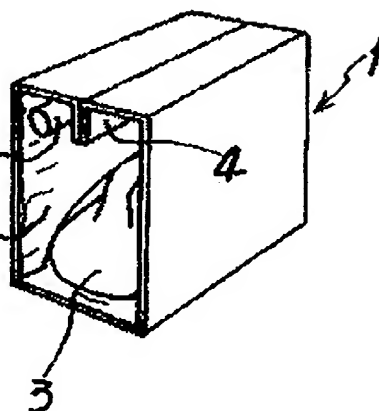
(1) … 台紙、(2) … 樹脂フィルム、(3) … 梱包被褥、
(4) … フラップ、(5) … 把手、(6) … 切込み、(7) … 舌片、
(8) … 厚紙

代 理 人 森 本 義 弘

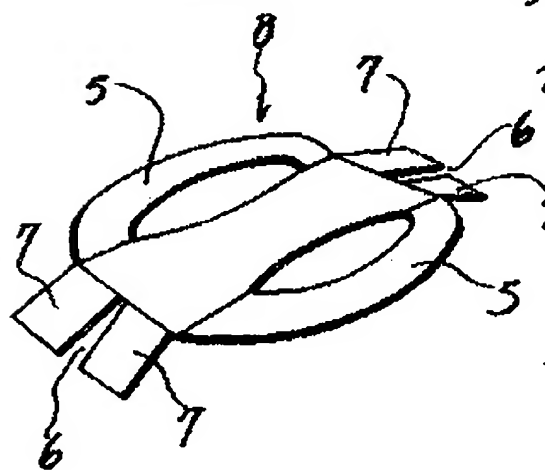


第1図

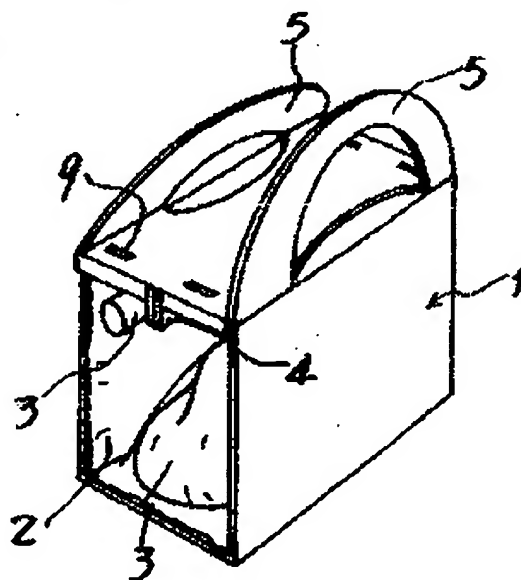
第2図



第3図



第4図



107583

代理人 森本義弘